

令和7年度

「ちばっ子の学び変革」

推進事業研究状況報告書

浦安市立明海中学校



研究主題

自ら答えを見出し実践できる生徒の育成

～ 問題発見・解決能力の育成 ～

学校と地域について

- ・生徒数 229名
- ・学級数 7学級
- ・創立 平成18年
- ★今年度20周年を迎えました。
- ・地域
浦安市の明海
- ★都心近郊型住居地として
開発が進んでいます。



主題設定の理由（生徒の実態）

生徒の良いところ

- 自分の課題に挑戦したり、努力することができる。
- 学区の園児・小学生と変わりをもち交流している。
- 地域の活動や行事に積極的にかかわっている(郷土愛・豊かな関わり)。

生徒の課題

- 自分の考えを優先しがちにする傾向がある。
- 自己判断力と自己決定力に課題がある。
- 他者とかかわり、物事を成し遂げていく態度と能力に課題がある。

主題設定の理由（昨年度のアンケート）

	質問内容	全国・県と本校の比較
hyper-QU	人との関わりに関すること	全国・県を下回っている
全国学力・学習状況調査	自分と違う意見に対して考えることは楽しいですか？	全国・県を下回っている

相互理解、合意形成が希薄であることが窺える。

主題設定の理由（昨年度のアンケート）

道徳および自己実現に関するアンケート

「自分で決める能力をもっていると思う」⇒74%

⇒自己決定能力を80%以上にしたい。さらに、

「自分で決めたことは不安でうまくいかないことが多いと思う」⇒47%

「誰かに決めてもらったほうが良い結果を生むと思う」⇒41%

⇒自分で決める力があると答えているが、その裏には自分に対する自信のなさがうかがえる。

自己肯定感が低く、不安を抱えている。

主 題 設 定 の 理 由

これらの結果から、本校の課題は

「人とかがかわり、つながる力の向上」

主題設定の理由

本校が目指す生徒像

- ①主体的に学ぶ生徒
- ②多様な価値観を認めながら、協働的に活動できる生徒
- ③心身の健康に留意する態度、折れない心をもつ生徒

①「主体的に学ぶ」とは、自分の課題に気づき、解決策を考え、問題解決に向けて取り組むこと。

⇒問題発見・解決能力の育成では①が本校の上位目標である。

⇒上位目標を達成するために②③が育成必須。

⇒②③を育成するために、他者とのかかわる力、社会とのかかわる力（社会的能力）を育成することが必要である。

手立て

- ①生徒の人間関係力・社会的能力の育成するために、Social and Emotional Learning (SEL-8) という手法を特別活動に取り入れる。
- ②学級活動において、自分たちの課題を取り上げ、問題解決に向けて考え、実践する。
- ③総合的な学習の時間において、「PBL」という手法を用いて「探究的な学習」の充実を図ることで、生徒の問題発見・解決能力を養う。
- ④各教科の単元末において、発展的な課題を課すことを通して、各教科のコンピテンシーを養う。

検証方法

比較検討項目

①SEL－8の各項目

②全国学力状況調査のアンケート項目

- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいですか？
- ・学級活動における話し合いを生かして、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか？

③Q-Uの項目

- ・人と仲良くしたり、友人関係をよくしたりする方法を知っている。
- ・学級内には、いろいろな活動やおしゃべりに誘ってくれる友人がいる。
- ・学級内には気軽に話せる友人がいる。
- ・自分が何かをしようと思ったときに、協力してくれる友人がいる。
- ・困っているときに、友人に「手伝ってほしい」とお願いしていますか。
- ・わからないことがあるとき、友人や先生にきいていますか。

②学級会や人間関係形成に関する授業改善に向けて授業実践、授業研究、研修を行い、協議・検討、指導・助言を重ねながら検証を進める。

授業の様子



話している人のほうを向いている。
表情も柔らかくなってきた。

体が向くようになった。
内容をメモしている様子。



研究を通して、生徒が熱心に話し合いを行っている場面が多く見られるようになった。

授業の様子

「個別最適な学び」と「協働的な学び」について

① 個別対応の充実

学校では個別支援計画、支援・通級指導、そらいろや学びサポートなどの個別対応を行っている

② 数値・画像・PP等の見える化

一斉伝達では理解が難しい生徒がいるため、課題把握、説明内容、授業の内容に合わせて「見える化」を行っている

③ グループワークの際の配慮

特性によるトラブルやサポート体制を考慮したグループ作り、円滑なグループワークのためのフォローを教科担当やTTで行っている

加配教員の活用について

- 加配教員が配置されたため、授業等の負担が軽減され、研究に人員や時間を割けるようになった。
- 保護者・本人との丁寧な話し合いをもとに、職員間や管理職、特別支援コーディネーターやカウンセラーとの綿密な相談を重ねることができ、一人ひとりの個別最適な学習を模索し、実行することができている。

研究の成果・課題

9月と12月のSELアンケート結果



研究の成果・課題

SEL アンケート結果	9月	12月	比較
①自己への気づき	97.9	103.6	5.7
②他者への気づき	87.9	98.2	10.4
③自己のコントロール	78.2	83.6	5.4
④対人関係	80.7	87.1	6.4
⑤責任ある意思決定	86.8	94.6	7.9
⑥生活上の問題防止のスキル	91.1	102.9	11.8
⑦人生の重要事態に対処する能力	83.9	89.3	5.4
⑧積極的・貢献的な奉仕活動	78.9	93.2	14.3

成果

- ・ SELの授業による知識や活動を普段の学校生活で実践することで各項目の値の上昇が見られたと考える。

課題

- ・ 特に③自己コントロール ④対人関係が低い。
- ・ ①②を生かした実践の機会を継続的に提供する。

次年度の研究の方向性

①今年度（1年目） SELおよびPBLについての調査・研究

- 書籍、文献による調査・研究
- SEL-8研究会主催によるSEL-8教員等研修会へ参加（6/13）（11/28）
- 日本PBL研究所主催によるPBLメッセへの参加（6/14）
- SEL先進校への視察（9/23～25）
- PBL校内研修（10/8）
- SEL-8Sプログラムを導入した特別活動の実施（6/26 7/9 10/29 11/11 11/27）
- PBLを導入した総合的な学習の時間の実施（通年）
- 学びの変革事業（問題発見・解決能力）に係る校内研修（1/28）
- 日本SEL学会主催研修会へ参加（2/7）
- SEL校内研修（2/18）
- 日本SEL学会第2回大会への参加（3/21）
- 各教科における「指導と評価の計画」の作成と実施（問題発見・解決場面の創出）

次年度の研究の方向性

② 2年目

- ・ SEL – 8 Sプログラムを導入した特別活動の実施
- ・ 問題発見・解決能力を念頭に置いた特別活動（学級活動）の実施
- ・ 本校独自の特別活動（学級活動）のカリキュラム作成
- ・ PBLを導入した総合的な学習の時間の実施
- ・ PBLを導入した総合的な学習の時間のカリキュラムの作成
- ・ 「ちばっ子の学び」変革推進事業公開研究協議会（10/2）

③ 3年目

- ・ 本校独自の特別活動（学級活動）のカリキュラムの完成
- ・ PBLを導入した総合的な学習の時間のカリキュラムの完成